

# STOP! 転倒災害 FUKUOKA 総点検運動

～ 誰もが安心して健康に働くことができる社会を実現するために ～

取組期間:平成29年6月～平成30年2月

福岡労働局では、昨年、「福岡転倒災害防止 総点検運動」を展開し、本年に入り、転倒災害の発生件数が減少しています。しかしながら、転倒災害発生件数は、全体の約2割を占めていることから、「STOP! 転倒災害プロジェクト」の一環として、「STOP! 転倒災害 FUKUOKA 総点検運動」を実施することとしました。下記のチェック項目を毎月1～7日に決まってチェックし、転倒災害防止に努めましょう。

図1 転倒災害に係る労働災害発生状況

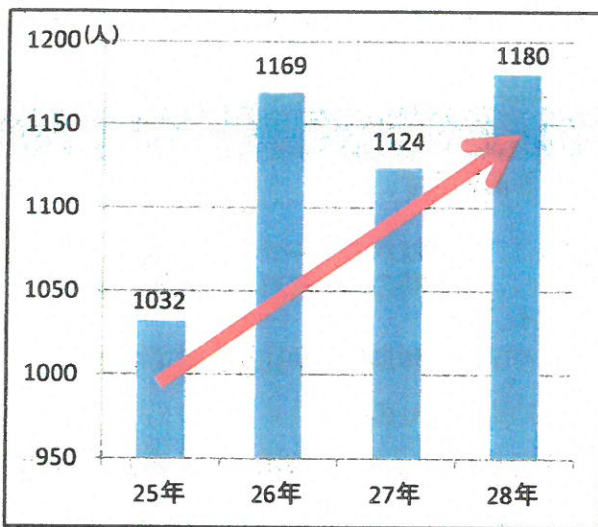
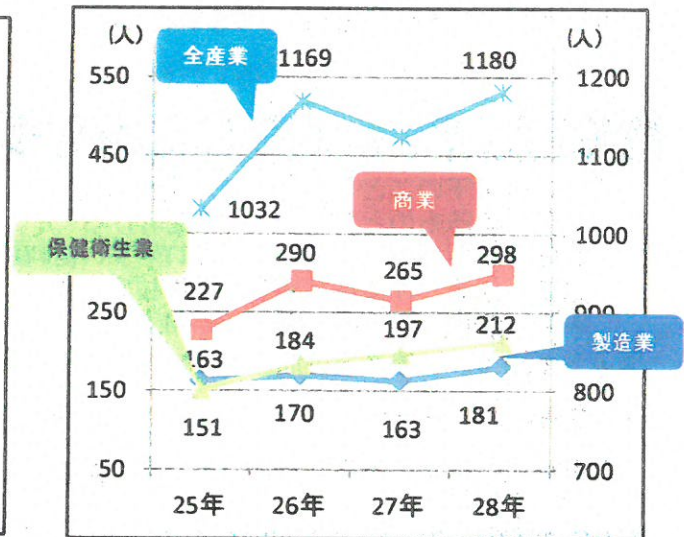


図2 業種別転倒災害発生状況



福岡県内では、転倒災害が平成25年から平成28年までの間に、148人(14.3%)増加している状況で、さらに、増加傾向にあります。転倒災害は、1年間で発生している労働災害の約1/4を占め、労働現場の労働災害防止活動では、喫緊の課題となっています。

## 転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		レ
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつ、ちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>



## 転倒防止対策

### ①常時使用する労働者が10人以上50人未満の事業場は、安全衛生推進者(衛生推進者)を選任しましょう。

労働安全衛生法 第12条の2に基づき、

常時10人以上50人未満の労働者を使用する事業場において、安全衛生推進者(小売業など業種によっては、衛生推進者)を登録を受けた者が行う講習を修了した者等のうちから、選任する必要があります。

#### ガイドライン

小売業、社会福祉施設、飲食店などの業種における安全推進者の配置等に係るガイドラインにより選任しましょう。

(安全推進者の職務)

- 職場環境及び作業方法の改善に関すること。(床面の段差等の解消、4Sの推進、ストレッチ体操の推進)
- 労働者の安全意識の啓発及び安全教育に関すること。(雇入時の転倒防止教育の実施、危険マップの作成)
- 関係行政機関に対する安全に係る各種報告、届出等に関すること。

### ②4S活動(整理・整頓・清掃・清潔)を実施しましょう。

4Sとは、以下のことを日常的な活動として行うのが4S活動です。

整理 要るものと要らないものを分ける

整頓 要るものを区分して、使いやすい便利な場所に、安全な状態でキチンと収納する。

清掃 通路、作業用具等まで掃除して、汚れをなくし、ゴミ等のないきれいな職場にする。

清潔 職場内の清潔を維持し、向上するよう努力する。

- ◆ 4S活動は、労働災害の防止だけではなく、作業のしやすさ、作業の効率化も期待できます。
- ◆ お客様の目に触れにくいバックヤードも整頓を忘れないようにしましょう。
- ◆ 荷物やゴミなど、物が散らかっている職場や、水や油で床が滑りやすい職場は、災害の危険が高くなります。

### ③労働者一人ひとりが、転倒しにくい作業方法に努めましょう。

- ◆ 時間に余裕をもって行動しましょう。
- ◆ 滑りやすい場所では、小さな歩幅で歩行しましょう。
- ◆ 足元が見えにくい状態での作業は避けるなど、転倒しにくい作業で行いましょう。

### ④その他の対策

- ◆ 作業に適した靴(防滑性、撥水性、保温性のある靴)を着用し作業を行いましょう。
- ◆ 職場の転倒リスクを記した危険マップ(ハザードマップ)を作成し、労働者へ危険情報を事前に通知しましょう。
- ◆ 高齢労働者に対して、段差をなるべく少なくする、段差の部位に滑り止めを取り付けるなどの対策を取りましょう。

